

令和5年度

三田市

予算編成に関する要望書

日本維新の会 三田

小山 裕久 林 政徳

令和5年度

三田市予算編成に関する要望書

日本維新の会 三田
小山 裕久 林 政徳

新型コロナウイルス感染症との共存は3年目を迎えました。本年1月からは、それまでの過去最高の感染者数を記録した第6波を経て、7月からは、さらに急速で大きな感染拡大をみた第7波を経験しました。今後も周期的な波が押し寄せることが予想されます。その中ではゼロ・コロナを目指すのではなく、ウイズコロナを基本として、これまでの教訓を生かしながらのコロナ対策、社会対策、経済対策等の諸施策を検討し実施していくことが必要と考えます。特にコロナ対策については、重症化が軽減されたオミクロン株が出現したとはいえ、その特性を踏まえた対策への対応強化をしなければなりません。若年層への職域接種を含む3回目接種の加速や、高齢者への4回目対策、1・2回目接種を受けていない人への接種の呼びかけや小児への接種対策も必要です。また第6波、第7波という最高の感染者数を記録した中では、激増する自宅療養者へ新たな対策も急務です。例えば自宅療養者に経口飲み薬をはじめとする治療薬の配布をどう行うのかとか、オンライン診療はどう進めるのかといった方策も今後の課題と考えます。どのように変異していくのかが見通せていない中で、生活・経済の正常化を図りウイズコロナに適応した「出口戦略」も早急に策定すべきと考えます。社会全体のマインドチェンジを促し、社会活動、経済活動を正常化するためには、新型コロナウイルスを「正体不明」の存在として不安視するマインドからは脱却し、科学的・医学的根拠に基づいて丁寧でわかりやすく市民に語りかけるといったコミュニケーションも必要になってくるかと存じます。人々が生計を立てる上で、国際的な人の往来なしに我が国の生活、経済を守り、人を育てていくことが出来ず、国も本年3月より、段階的に入国枠の緩和を進め国際的な人の往来を正常化する取り組みを開始しました。新型コロナウイルスを消滅させるまで、果てしない航海を続けるのではなく、どこかで折り合いをつけて市民の皆様が日常生活を取り戻すきっかけを市政の諸施策の中で考えていただきたいと存じます。ワクチンや治療薬の一層の普及を図るとともに、新型コロナウイルスと共存できる穏やかな社会体制への変化が期待されています。

共存と社会体制の変化に考慮した令和5年度における会派の予算編成及び施策を要望いたします。

1. 新型コロナウイルス対策について
 - (1) ワクチン接種体制の整備

(2) 高齢者施設や福祉施設でのクラスター発生防止

(3) 軽症者施設と自宅療養者への体制強化

(4) 医療従事者への手厚い処遇強化

(5) 医療体制の強化

(6) 院内感染予防

(7) 他自治体との連携強化

2. 医療・福祉提供の充実に向けて

(1) 救急救命の更なる充実

(2) 医療 DX の推進

(3) 医師不足への対応強化

(4) 障がい者の就労・社会参加支援の充実

(5) 健康寿命の延伸

(6) 介護人材の確保

3. SDG s の取り組みについて

(1) 市内への SDG s 取り組みへの支援強化

(2) SDG s に対する市民理解の促進に向けた周知啓発

(3) 水素エネルギーの活用の研究

(4) フードロス削減

(5) パークマネジメントの推進

4. 大阪・関西万博に向けた体制整備について

(1) 兵庫県下の他市との連携強化と大阪府との情報共有

(2) ひょうごフィールドパビリオンへの参画と強化・周知

5. 人口減少対策

(1) 女性に優しい街を目指す（不妊治療への支援・女性活躍の推進）

(2) 困窮世帯・ひとり親世帯への支援

(3) 男性の育休取得

(4) 保育人材の確保と質の向上

(5) 空き家対策

(6) 雇用の促進

(7) 関係人口の増加

6. 教育の充実について

(1) 35 人学級に伴い増員される教員の質の向上

(2) インクルーシブ教育の実現

(3) いじめ防止

(4) 教職員の働き方改革の強化